

特別支援教育研究論文集

—令和5年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力:独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの実現
—6つの取組から新たな領域の専門性を身に付ける！—

福島県立相馬支援学校

研究代表 校長 植田 貴子

令和6年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

要旨

本研究は、学校における校内研修に焦点を当て、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた研修の在り方について考察する実践研究である。研究の背景としては、令和4年度に教員免許更新制度が発展的解消となり、新たな研修制度が開始されたことが挙げられる。新たな研修制度に伴い、国や各地方自治体、各学校現場は、研修体制の整備に向けた具体的な取組と課題の整理が求められている。本校においては、カリキュラム・マネジメントの一環として校内研修の整備を進めてきたところであった。そこで、本校各教員の研修状況の全体像を把握するとともに、校内研修の各取組について検証し、「新たな教師の学びの姿」の在り方について研究することとした。

研修に関する教員アンケートを実施し、過去1年間の研修状況や本校校内研修に関する意識を調査した。その結果、約1～3割の教員は職務研修以外にも自ら研修の場を作って学んでおり、それ以外の教員は職務研修のみが研修の場となっていることが推測された。また、本校の校内研修の取組について、気軽に参加できる雰囲気や教員ニーズに応じた内容や方法の設定により教員から高評価を得ている状況も分かった。さらに、自主研修によるオンラインコンテンツの活用について、約6割の教員に経験が無いことが分かった。このことから、本校校内研修のよさを生かした協働的な学びの充実を図るとともに、個々のニーズに応じて学ぶことのできる環境整備が必要であると考え、校内研修の取組に生かすこととした。

また、本校の特徴的な6つの取組の事例について取り上げ、改善を図りつつ検証と考察を行った。「1. 単元案の取組」では、授業づくりと学習評価に注力できるカリキュラム・マネジメントとシステムづくりの重要性を確認した。「2. 単元研究会の取組」では、任意参加、対話、ファシリテーションの考え方や技術等の重要性を確認した。「3. 教師寺子屋の取組」では、多様な研修内容、ニーズに応じた学び、ワークショップ型や対話の場の重要性を確認した。「4. 0JL 研修会の取組」では、心理的安全性やリーダーシップ等職場風土の重要性を教員間で共有することの重要性を確認した。「5. 個人で学べる環境整備」では、研修資料の整備とICT活用の重要性を確認した。「6. オンラインコンテンツの活用」では、オンラインコンテンツの情報提供や校内研修の機会、スキルに応じたサポート体制の重要性を確認した。

研究のまとめとして、「新たな教師の学びの姿」と校内研修との関連を整理し、校内研修の取組の要点と配慮事項をまとめた。中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて（審議まとめ）令和3年11月15日」に示された「新たな教師の学びの姿」のキーワードを引用し、キーワードごとに要点の整理を行った。

校内研修の要点と配慮事項については、授業づくりと学習評価に注力するための環境づくり、自律性と主体性の尊重、対話と学び合いを促す場と手立ての工夫の3点にまとめた。また、今後の取組に向けた課題として、持続可能なシステムづくり、個々の探究的な学びのさらなる充実、個々の目標設定と研修の選定の在り方、特別支援学校教員向けの学習コンテンツの充実、個別最適な学びの仕組みと時間の確保を挙げた。

キーワード：新たな教師の学びの姿、特別支援学校における校内研修、教師を支える環境整備